

イズモコバイモの訪花昆虫相

島根県立三瓶自然館

皆木 宏明

目的

イズモコバイモ (*Fritillaria ayakoana* Naruhashi) は、島根県東部に局限分布する島根県に固有の植物であり、島根県版レッドデータブックにも掲載されている。本種は3-4月に開花し、5-6月には結実する。結実後は地上部は枯死し地下部の鱗茎のみで休眠する典型的な春植物である。開花までには5年程度の期間を要することが知られている。

本種は落葉樹林内やその林縁部に生育するが、近年では園芸的価値の高さから生育地での盗採が後を絶たず、生育環境の悪化も伴って個体数の減少が心配されている。

このような状況を鑑み、保全生態学的な管理手法の確立に向けて、対象となる植物や種生態やイズモコバイモの繁殖生態について、生態学的な調査を十分に行う必要がある。

調査方法

島根県大田市祖式町内のイズモコバイモ自生地において、2004年3月10日-3月30日の開花期間に、イズモコバイモの種子繁殖に関わると考えられるイズモコバイモの訪花昆虫相の調査を行った。また、送粉昆虫の存在を確認するためイズモコバイモの花の一部に袋をかけ、訪花昆虫を除外した状態での結実の有無も調査した。なお調査は、本調査地で継続的にイズモコバイモの保護活動を実施している島根自然保護協会と協力して行った。

結果と考察

イズモコバイモの訪花昆虫

今回の調査でイズモコバイモへの訪花昆虫として、ハチ目のコハナバチ類とヒメハナバチ類数種、コウチュウ目のハネカクシ類とケシキスイ類、ハエ目のアブ類の6種を確認した。訪花行動はいずれの昆虫種も不活発で、ほとんど訪花活動が確認できない日も多かった。調査地では他にもギフチョウやスジグロシロチョウなどのチョウ類、ピロードツリアブなどが他の開花植物への訪花が見られたが、イズモコバイモへの訪花は確認できなかった。

袋掛けした花数は少なかったが、13花中、1花のみ結実し、他の株は結実しなかった。袋掛けしたことによって、本種の開花日数が延長する傾向が見られたことから、訪花昆虫が本種の種子繁殖に大きく関与しているものと思われる。

イズモコバイモは実生から開花まで5年程度かかるため、今後は本種の結実率や結実後の種子分散、個体群動態も含めた本種の繁殖戦略についての調査を継続して実施し、イズモコバイモの自生地保全方法を検討する予定である。



イズモコバイモの開花個体